みんなでつくる田んぼアート。

6月8日と9日に田植えイベントが行われ、8日は2574人、9日は2464人の参加者が心を込めて丁寧に苗を植えました。

田んぼアートは、その準備からお米の収穫まで、市内外から参加するボランティアの皆さんや地元農家の皆さんなど多くの方の協力によって作られています。そこには、携わってくれた方たち一人一人の思いが詰まっています。

「たのしかったー！」（みちかちゃん·4歳·市内在住）

初めは汚れるのが嫌で足を入れることもできませんでしたが、一度足を踏み入れたら顔が泥んこになるまで夢中で頑張りました！

（みちかちゃんのお母さんより）

市外からも多くの方が参加

（高森正和さん家族・さいたま市在住）

今回のテーマを見て、石川県出身の私も力になれればと、初めて参加させていただきました。田んぼの中は気持ちよく、なかなか経験できないことで子どもも大満足の様子でした。また田植えの難しさを知り、農家の方々の大変さを肌で感じることができました。

見頃を迎える時期に家族で見に行きます。

田植えイベントの裏側で

杭打ち

皆さんがスムーズに田植えができるよう、代掻き(しろかき)（田に水を入れて土を砕いてかきならす）をした後、測量機器を使って図形を形成するための杭を打っています。その後、杭と杭をひもで結び、絵の輪郭を縁取ります。

苗運び

県の種苗センターで種をまき、育てた苗を会場へ運んでいます。

今年の田んぼアートは４品種の稲で描かれています。緑色の「彩のかがやき」、黒色の「ムラサキ905」、赤色の「べにあそび」、白色の「ゆきあそび」は７月中旬ごろから鮮やかに色づき、秋にかけて表情を変えていきます。

補植

田植えイベントから７月の見頃を迎える前まで、ドローンなどを活用しながら苗の足りていない箇所を把握し、補植作業を行っています。